

2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52521	保育実習 I Childcare Internship I	太田美鈴 児玉珠美	✓	共通	2	選択	1後期

科目の概要

本科目においては、2週間の見学・観察・参加実習を通して、これまで学んだ様々な基礎理論や技術を実際の保育現場で具体的にかつ総合的に活用し、課題に対して応用できる体験学修することを目的とする。毎日の保育活動を理解し、保育士の子どもの関わり方や保育の計画、実践、観察、記録などについて具体的に学び、保育士として必要な実践力を身に付けていくようにする。さらに、本実習を振り返り、今後の学びの課題を明確にしていく。★ 保育所で保育士として実務経験があり、幼稚園教育要領や保育所保育指針に述べられている保育内容についてより実践的な講義を行う。

学修内容	到達目標
① 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子ども理解を深める。 ③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 ④ 保育の計画、実践、観察、記録などを具体的に学ぶ。	① 保育所の役割や機能を具体的に理解することができる。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子ども理解を深めることができる。 ③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶことができる。 ④ 保育の計画、実践、観察、記録などを具体的に学ぶことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	保育実習指導 I や前後期での学びをすべて活かし、課題意識を持って取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	自分で目標を設定し、目標に到達できるように確実に行動することができる。
考え抜く力	課題発見力	毎日の実習の振り返りを通して、自己の課題を常に持ちながら実習に臨むことができる。
	計画力	
	創造力	保育者の活動を学び、遊びや保育活動を自分なりに工夫して創り出すことができる。
チームで働く力	発信力	子どもたちや保護者、保育士に明るく元気に自分から挨拶することができる。子どもたちは保育士に積極的に話しかけることができる。
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り、まず相手の話を聞く姿勢を持つことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「学外実習の手引き」本学幼児教育学科作成
 参考文献：厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館（320円）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」フレーベル館（320円）、「教育・保育実習安心ガイド」ひかりのくに（1100円）、「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに（1000円）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：教育実習指導 I、教育実習 I、保育実習指導 I、その他保育内容5領域等
 資格との関連：保育士、レクリエーションインストラクター、准学校心理士

学修上の助言	受講生とのルール
--------	----------

・講義や演習などで学んだことを確認する。 ・季節の歌・絵本・手遊び等レパートリーを増やし、実践できるように繰り返し演習しておく。	・無断遅刻欠席は厳禁 ・提出物は期限を守り、指導者の話を素直に聞く。 ・健康管理に注意し万全な態勢で臨む。 ・問題意識を持ち、疑問やわからないことなど積極的に質問するなどして保育を深める。 ・絵本読み、手遊びなどを意欲的に実践する。
---	--

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①						
				②						
				③						
				④						
	平常評価	小テスト		0	①					
					②					
					③					
					④					
		レポート		0	①					
					②					
③										
④										
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			90	①	✓					
				②	✓					
	③			✓						
	④			✓						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓						
			②	✓						
			③	✓						
			④	✓						
総合評価割合		100								

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 S (秀) = 評価内容 S 総合得点90点以上 A (優) = 評価内容 A 総合得点80点～89点	園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 B (良) = 評価内容 B 総合得点 70点～79点 C (可) = 評価内容 C 総合得点 60点～69点

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1・2	保育実習(観察実習) 子どもの様子や保育の流れを捉えることができる。積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを質問し、早めの状況把握できる方法を学ぶ。(実習園保育者) 実習における疑問等、担当教員から指導を受ける。(太田・児玉)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返りによりフィードバックする。	子どもの様子や保育の流れを捉えることができる。積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを質問し、早めの状況把握に努めることができる。	(予習) 保育実習指導Ⅰで学んだ内容を確認し、実習に向けて準備を整えておく。実習期間中の園のスケジュールや一日の流れを確認しておく。 様々な場面での部分実習ができるよう、遊びや保育活動をいろいろ考えておく。 (復習) 毎日の記録ノートを書き提出する。わからなかった点は、翌日質問できるようにまとめる。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3・4	保育実習(参加実習) 保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割を進んで果たし、積極的な実習の仕方を学ぶ。子どもの発達過程に適した対応を学ぶ。(実習園保育者) 巡回指導教員から助言指導を受け、実習内容を検討する。(太田・児玉)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返りによりフィードバックする。	保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割を進んで果たし、積極的な実習を心掛けることができる。子どもの発達過程に適した対応を考えることができる。	予習) 子どもの発達課程について把握しておく。年齢に合わせた絵本や遊びを準備し、練習する。 (復習) 毎日の担任保育者からの記録ノートへの添削や指導内容を基に、具体的な改善点を考え、行動する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力
5～14	保育実習(部分実習) 部分案を立てて、保育者の指導をあおぎ、案を検討する。立案した指導案のイメージを意識し保育に活かす方法を検討し、実践する。(実習園保育者) 巡回指導教員から助言指導を受け、実習内容を検討する。(太田・児玉)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返りによりフィードバックする。 (実習園保育士) (太田・児玉)	部分案を立てて、保育者の指導をあおぎ、案を検討できる。 立案した指導案のイメージを意識し保育に活かすことができる。	(予習) 部分実習の対象クラスの子どもたちの発達過程や状況について観察し、適した遊びや保育活動を考える。部分実習指導案を早めに作成し、保育者の指導を受けられるように準備する。 (復習) 部分実習の評価を受けて、反省をまとめ、課題を明らかにする。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力
15	反省・総括 保育実習Ⅰを終えて実習内容を振り返り、総括としてまとめる。指導された内容を振り返り、学んだことや次回の実習に向けて今後の自分の課題等を明らかにする。 (実習園保育者・太田・児玉)	学外実習の振り返りと総括 (実習園保育士) (太田・児玉)	保育実習Ⅰを終えて実習内容を振り返り、総括としてまとめることができる。指導された内容を振り返り、学んだことや次回の実習に向けて今後の自分の課題等を明らかにすることができる。	(予習) 実習を振り返り総括を完成しておく。 (復習)最終のまとめの指導内容を受け、学んだこと、今後の課題を確認する。 記録ノートをまとめ、園に提出する。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52522	保育実習Ⅱ Childcare Internship II	児玉珠美・太田美鈴	✓	共通	2	選択	2前期

科目の概要

保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰでの学びを踏まえて、保育実践力をより確かなものにする。子どもの観察と記録及び子どもへの援助や関わり方等を様々な実践を通して総合的に学び、保育の計画・実践・観察・記録等について実際に取り組み、理解を深める。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、自己の課題を明確にし、学んだ知識や技術等うい活用し、解決する力を身に付ける。★ 保育所での保育士として実務経験があり、幼稚園教育要領や保育所保育指針に述べられている保育内容についてより実践的な講義を行う。

学修内容	到達目標
① 保育所の役割や機能を具体的な実践を通して理解を深める。 ② 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ③ 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について学び、実習に向けて保育計画を立案する。 ④ 保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結びつけて理解する。	① 保育所の役割や機能を具体的な実践を通して理解を深め、実習園において行動をすることができる。 ② 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、実習園において実践することができる。 ③ 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実習を通して学び、実習記録に記述することができる。 ④ 保育士の業務内容や職業倫理について理解し、実習園において保育士としてふさわしい行動をすることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	実習に必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修することができる。技術の習得のために自ら練習をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	自分で目標を設定し、目標に到達できるように確実に行動することができる。
考え抜く力	課題発見力	毎日の実習の振り返りを通して、自己の課題を常に持ちながら実習に臨むことができる。
	計画力	
	創造力	授業で修得した技術を応用して、保育活動を創り上げることができる。
チームで働く力	発信力	園児に伝わる語りかけ方を考え、話し方を工夫することができる。整理した実習内容を的確な文章で表現することができる。
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り、相手に共感する姿勢を持つことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト： 本学幼児教育学科作成 『学外実習の手引き』
 参考文献： 無藤隆『はじめての幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 フレーベル館（1000円）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連： 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、教育実習指導Ⅰ、教育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、その他保育内容5領域等
 資格との関連： 保育士・レクレーションインストラクター・准学校心理士

学修上の助言	受講生とのルール
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返り、実習に臨むこと。 ・日頃より絵本、季節の歌、手遊び等進んで取り組み保育に積極的に参加すること。	・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守すること。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受講しない学生はこの科目が受講できないことになるので注意すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①						
				②						
				③						
				④						
	平常評価	小テスト		0	①					
					②					
					③					
					④					
		レポート		0	①					
					②					
③										
④										
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			90	①	✓					
				②	✓					
	③			✓						
	④			✓						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓						
			②	✓						
			③	✓						
			④							
総合評価割合		100								

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 S (秀) = 評価内容 S 総合得点90点以上 A (優) = 評価内容 A 総合得点80点～89点	園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 B (良) = 評価内容 B 総合得点 70点～79点 C (可) = 評価内容 C 総合得点 60点～69点

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1・2	保育実習(参加実習) 一日の保育の流れを把握し、保育活動や子どもとの関わり方を学ぶ。 保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割について学ぶ。 (実習園保育者) 実習に関する様々な疑問について、担当教員から指導を受ける。 (児玉・太田)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返り	一日の保育の流れを把握し、積極的に保育活動や子どもに関わろうと努力できる。 保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割をすることができる。	(予習) 保育実習指導Ⅱの内容を確認し、準備物の準備をする。 園の一日の流れを把握しておく。指導案を作成し、保育者の指導が受けられるように準備する。 (復習) 一日の子どもの様子、自分の言動等を記録を通して振り返り、できたこと、できなかったことを明らかにする。さらに、次の課題を明確にする。疑問点は保育者に質問できるようにまとめておく。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3・4	保育実習(参加実習・部分実習) 子どもの状況に適した部分実習の指導案を作成し、保育者の指導を受け、実践方法を学ぶ。 保育者の助言を受け、部分実習を振り返り、責任実習に向けての課題を明らかにし、解決する具体的な方法を見出し、実践方法を学ぶ。 自ら気づき、保育者の補助的な役割について学ぶ。 (実習園保育者) 巡回指導教員から、助言等の指導を受け、実習内容を検討する。 (児玉・太田)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返り	子どもの状況に適した部分実習の指導案を作成し、保育者の指導を受け、実践することができる。 保育者の助言を受け、部分実習を振り返り、責任実習に向けての課題を明らかにし、解決する具体的な方法を見出し、実践することができる。 自ら気づき、保育者の補助的な役割をすることができる。	(予習) 部分実習指導案のイメージを持って、保育活動ができるように、練習する。 責任実習の指導案を作成し、保育者の指導が受けられるように準備する。 (復習) 毎日の担任保育士からの記録ノートへの添削や指導内容を基に、具体的な改善点を考え、行動する。	180	実行力 課題発見力 発信力
5～14	保育実習(部分実習・責任実習) 責任実習指導案指導案を作成し、保育者の指導を受け、案を検討する。 立案した指導案のイメージを持ち、保育に活かす方法を学ぶ。 保育者の助言を受け、責任実習の振り返りをし、今後の課題を明確にする。 (実習園保育者) 巡回指導教員から、助言等の指導を受け、実習内容を検討する。 (児玉・太田)	学外実習活動 実習記録を通しての振り返り	責任実習指導案指導案を作成し、保育者の指導を受け、案を検討することができる。 立案した指導案のイメージを持ち、保育に活かすことができる。 保育者の助言を受け、責任実習の振り返りをし、今後の課題を明確することができる。	(予習) 責任実習に向けて、対象クラスの状況や、個々の子どもの発達過程について把握する。 疑問点については保育者に質問できるようにまとめておく。 (復習) 責任実習の評価を受けて、自己の省察をし、今後の課題を明らかにする。	180	主体性 実行力 創造力
15	反省・総括 保育実習Ⅱ全体を振り返り、保育者からの評価を受け、反省をまとめる。 実習から学んだこと、達成できなかったことをまとめ、今後の課題を明らかにする。 (実習園保育者・児玉・太田)	学外実習の振り返りと総括	保育実習Ⅱ全体を振り返り、保育者からの評価を受け、反省をまとめることができる。 実習から学んだこと、達成できなかったことをまとめ、今後の課題を明らかにすることができる。	(予習) 実習を振り返り、記録ノートの総括を完成しておく。 学内事後反省会に向けて、体調チェック表及び報告書を完成させておく。 (復習) 最終のまとめの指導内容を受け、学んだこと、今後の課題を確認する。記録をまとめ、園に提出する。	180	課題発見力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレストロール力